

地域社会との緊密な連携を築く

## 地域とともにあるPTA活動

尾張旭市立旭丘小学校PTA

### 1 はじめに

#### (1) 学区及び学校の概要

尾張旭市立旭丘小学校は、昭和54年に尾張旭市立旭小学校から分離し、市内で8番目にできた小学校であり、今年で創立42年目を迎えた。児童数598名の中規模校であり、PTA会員数は447世帯である。本校のある尾張旭市の人口は8万4千人弱で名古屋市から瀬戸市へ伸びる瀬戸街道の中間に位置している。平成16年には健康都市宣言を行い、「健康都市 尾張旭市」を標榜している。

本校は、南に水田が広がり、北は濁池と森林公園があり、豊かな自然に恵まれ、子どもたちも自然に触れながらの生活を送っている。令和元年6月にはこの森林公園で全国植樹祭が執り行われ、天皇、皇后両陛下が初の公務としてお出でいただいた場所でもある。また、地域的には、古くからの世帯と新しく入居された世帯が混在しているが、地域のつながりは強いものがあり、子どもたちは地域の中で健やかに育っている。



【令和元年度 全国植樹祭】

### 2 研究への取組

#### (1) 現状把握

本PTAと子どもたちの実態に目を向けると、地域の自治会は精力的に活動している反面、PTAは、自治会ほど精力的とは言い難い状況である。また、子どもも保護者も、自分たちが住む地域のことを知らなかったり、地域の人々との関わりが少なかったりして、PTA活動が深まらないのが現状である。また、子どもたちは、ネットなどの普及によりネット上の会話や遊びが増加する反面、現実生活での原体験や自然体験が減少し、多世代や地域の方と関わる体験が少なくなっている。PTAとしても、このような状況を憂える声もあり、課題となっている。

#### (2) 研究のねらい

このような中、平成28年度に尾張旭市教育委員会より、地域連携教育推進事業の委嘱を学校が受け、PTAもその一員となった。本事業は「地域とともにある学校」を目指すために策定された。本事業の目的は、①望ましい子どもの成長、②三世代交流、③地域の連携の強化となつて

いる。これを受けPTAができることとして、①児童の安心・安全、②各種団体と連携した学校支援、③地域連携教育への協力の3つの視点を考え、本研究を実践する。

### 3 実践活動の概要

#### (1) 児童の安心・安全

##### ① 通学路の安全とストップマークの設置

PTAの地区委員は地域とのつながりがあり、毎年6月に通学路点検をし、危険箇所を洗い出し、通学路の安全を確認している。この取組の中で、子どもが飛び出す危険のある場所にはストップマークを設置している。多い年には100枚以上にもなっている。



【ふれあいパトロール】

##### ② 見守り活動と110番の家

地域の方延べ70名ほどが中心となって朝と帰りの登下校時間に見守りをしていただいている。PTAとしても、地区委員に保護者の旗当番を分担してもらい、登校時の見守りを地区ごとで行っている。

また、110番の家はPTAの10数名も加盟しており、地域連携教育推進事業の1つとして毎年110番の家の地図を配布している。

#### (2) 各種団体と連携した学校支援

##### ① 地域のおじさん・おばさんあいさつ運動

学期初めに中学校区健全育成会が中心となって、「地域のおじさん・おばさんあいさつ運動」を行っている。PTA役員もこれに合わせて、正門と西門に分かれて、地域の方々と協力してあいさつ運動を行っている。子どもたちは、多くの人たちに見守られ、元気にあいさつをすることができ、学校・地域・PTAが連携した教育の一つとなっている。

##### ② 開校40周年記念イベント

平成30年度旭丘小学校40周年記念イベントの一環として、PTAと公益社団法人瀬戸旭法人会が中心となって「税金ウルトラクイズ」及び「税金大声コンテスト」を行い、熱気球に乗るというイベントを行った。当日は天気もよく多くの児童、保護者が来校し、気球に乗り、学校の40周年記念を一層盛り上げることができた。



【開校40周年記念イベント】

### ① P T Aベルマーク回収

学校の教育備品を支援するために、P T A厚生部が中心となってベルマーク活動をしている。子どもたちからの回収だけでなく、何年か前からは市役所環境課より使用済みのインクカートリッジをいただき、そこからもベルマークを回収することにした。P T A委員が大量のインクカートリッジからベルマークを集めることで、資源回収にも役立つ活動となっている。このような地道な活動により、10万点を超える点数が集まり、子どもたちが楽しみにしているボールや必要な用具を購入することができ、P T Aとしても喜ばしい限りである。

### (3) 地域連携教育への協力

#### ① がおかホリデーチャレンジ

本事業は、地域連携教育推進事業が始まると同時に企画され、今年度で5年目を迎える。地域の方々が講師を務め、子どもたちに学校とは別の地域独自の教育活動をしている。地域協働本部事業に近い内容になっており、年ごとにプログラムの数も多くなり、参加者も増えてきた。



【親子で米作り&田んぼ探検】

令和元年度は「チャレンジマリンバ」「絵画教室」「積み木あそび」「ネイティブと英語で遊ぼう」「親子で韓国料理」「レッツセッション楽器で遊ぼう」「生け花あそび」「親子DEテニス」「ショートテニスに挑戦」「挑戦ニュースポーツ」「親子で米作り&田んぼ探検」の11講座が実践された。本事業の目的の1つに「三世代交流」がある。地域のお年寄り世代と親世代、子どもたちの交流ができるよう、親子で参加できるプログラムが半数以上あるため、P T A（親）として参加しやすく、子どもだけでなく親も地域に親しみを感じることができた。

例えば、親子で米作り&田んぼ探検では、地域の水田を活用し、講師も地域の農家の方に依頼し、親子で昔ながらの田植えを体験した。

#### ② ふるさと子ども会議

ふるさと子ども会議は、地域連携教育推進委員会の一部と子どもたちが話し合う場であり、学校運営に地域の諸団体の意見を反映させるだけでなく、教育の享受者である子どもたちの意見も反映させるための会議である。P T A会長もこの会の一員である。

この会を進めるにあたって、予め大人がテーマを決めるのではなく、子どもに大人と話し合いたい地域のこと（校区をよくしたいこと）を書いてもらい、子ども会議部会でテーマを決めている。

令和元年度のテーマでは、「大人と子どもの交流を深めるためにしたいこと」、「楽しい学校にするためにしたいこと」が設定された。公民館に代表児童と、本委員・連合自治会役員が集まり、様々な意見を出

し合った。PTAからもPTA会長が参加し、討論に積極的に参加した。話し合った結果、大人と子どもの交流を深めるための標語コンクールを実施したり、子どもの遊び場「トトロの森」の整備を行ったりして、話し合いの成果が実感できるようになった。

#### ① 旭丘小学校の支援

##### ア 学校敷地内の環境整備

毎年、運動会の3週前の土曜日に連合自治会の方が学校敷地内の環境整備を行っている。この事業は地域連携教育推進事業の1つであり、PTAも協力・連携して学校支援をしている。自治会の方が刈った草を子どもたちとボランティアの保護者で袋に詰める作業を行った。また、1月には校舎裏の枯れ枝の整理も行い、これにも協力した。

##### イ 図書ボランティア

保護者を中心に図書室整備のボランティア（ママボラ）も行っている。読み聞かせボランティアとは別に、本の紹介や本の修繕など図書室の支援を行っている。

##### ウ 新型コロナウイルス感染防止支援

令和2年は新型コロナウイルス感染の影響で、学校・PTA・地域の行事が中止または変更される事態となった。PTA・連合自治会・社会福祉協議会・地域連携教育推進委員会の団体の会長はじめ関係者が集まり、授業後に消毒作業をお手伝いしようという趣旨の話し合いがもたれた。7月7日から先行して社会福祉協議会が消毒作業を行い、PTAは2学期から実施している。

## 4 おわりに

令和2年度は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言で学校が休校となり、PTA総会をはじめさまざまな活動の開始が遅れ、その内容も今まで通りとはいけなくなった。PTAとして地域連携教育推進委員会に関わることになり、子どもたちは、家庭だけでなく地域からも大切に思われ、様々な地域団体が子どもの育ちを支えてくださっていることに感銘を受けた。また、ふるさと子ども会議は、直に子どもたちの意見を聞くことができ、PTAとしても参考となった。よく言われるように子どもは、家庭・学校・地域の中で学び育まれているということを改めて実感した。

今後も新型コロナウイルス感染症で、物理的な距離はとりつつも、人と人とのつながりや地域の諸団体との連携・協力を一層強固なものとしたい。そして、PTAが学校と地域の架け橋になれるように努力したい。